

「福島、その先の環境へ。」現地見学会に全国から参加者が来訪

10月27日(日)、環境省主催の「福島、その先の環境へ。」現地見学会が昨年に引き続き開催され、全国から大学生を中心とする若者約30名が来訪されました。

参加された皆さんはとても関心が高く、見学会では様々な質問が飛び交い、見学時間ギリギリまで活発な意見交換が行われました。来年もこの事業が継続し、沢山の若者が広野町の復興の状況をその目で観て、肌で感じてくれたらと思います。



全国から見学に訪れた皆さん

「大宮国際中等教育学校」の生徒が見学に来訪



大宮国際中等教育学校4年次の皆さん

11月7日(木)、ふたば未来学園と同様の中高一貫校である埼玉県さいたま市立「大宮国際中等教育学校」4年次生(高校1年生)約40名が見学に来訪されました。短い時間ではありましたが、写真を撮りながら質問をしたりと、熱心に取り組まれていました。

11月6日(水)には、福岡県の福岡高校の生徒の皆さんも見学に訪れるなど、視察・見学の予約が増えてくる時期になりました。広野町の様子やトロピカルフルーツミュージアムの状況など、復興の様子について何かを感じてくれたら嬉しいです。

冬の「花いっぱい運動」を開催

11月8日(金)、南駐車場の道路沿いとふるさと広野館駐車場の花壇にパンジーなどを植栽しました。町民の皆さんにご協力をいただく夏の「花いっぱい運動」とは違い、今年も町職員や町内企業の皆さんの協力を得て、植栽を行いました。

参加者の皆さんが協力しながら作業を行い、植樹は約1時間半程度で終了しました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



南駐車場花壇での植栽の様子



公式サイト



公式インスタ



広野町に移住された方が 自然農法の米作りをはじめました！

広野暮らし相談窓口「りんくひろの」相談員の大森です。今回は昨年12月に広野町に移住され自然農法の米作りをはじめた佐藤雄己さんをご紹介します。

佐藤さんは秋田県出身で、実家が農家を営んでおり水稻や果物栽培などを経験され、その後東京で測量士として仕事をされていました。佐藤さんとの出会いは、昨年9月、東京で開催された「未来ワークふくしま移住セミナー」に佐藤さんが参加され、私が相談対応したのがきっかけになります。相談対応を機に広野町に非常に興味をもたれ、翌月には広野町に訪問されました。その後トントン拍子に住居、株式会社大和田測量設計への就労が決まり、お会いしてから約3か月というスピードで移住されました。

移住後、測量士の仕事を行いながら、自然農法の米作りができないか情報収集を行い、町内の田んぼを7アールお借りすることができ自然農法の米作りが開始しました。夏の時期は除草剤を使用しないので雑草との闘いで苦労されたようです。秋には稲刈りした稲を「稲架掛け(はさがけ)」し自然に乾燥させたお米を収穫されました。最近では、「稲架掛け(はさがけ)」している風景を見ることはなくなりましたね。自然農法のお米を収穫するまでには、田植えから稲刈りまで町内の農家の方々や役場の方々の協力を得て収穫することができたと皆さんに感謝されていました。個人だけでは米作りには限界がありますので地域の皆さんの協力が必要になりますね。今回収穫した自然農法のお米は、町内のこども食堂を運営している団体に提供される予定との事でした。

佐藤さんは、広野町のみかん栽培にも興味を持たれており、無農薬のみかん栽培を行う夢を持たれています。広野町にみかんを栽培する農家ができ、広野町の特産になる日も遠くないかもしれませんね。

取材させていただいた佐藤さんの記事は、広野町移住定住ポータルサイト内の「移住者の声」に掲載しております。是非一度ご覧いただけたらと思います。

広野町移住定住ポータルサイト
「移住者の声」▶



広野町移住定住ポータルサイト「移住者の声」取材風景



佐藤さん取材風景(ひろの未来館にて)



佐藤さん取材風景(自然農法の水田にて)

問 広野暮らし相談窓口りんくひろの ☎0240-27-1251